

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（3 日目）

（令和 8 年 6 月 8 日 午前 10 時 50 分）

●議長（酒井 聡） 休憩前に続き、会議を開きます。

通告の 7 片野良之議員

- 1 石油由来製品の枯渇対応について
- 2 観光業へ対する支援策の強化について
- 3 鳥獣害対策について

議席番号 5 番、片野良之議員

◆5 番（片野良之） 議席番号 5 番、片野良之です。通告になぞり質問を行います。昨今、ニュースなどで石油由来製品の枯渇または目詰まりの問題が少なくない頻度で流れています。町内の車屋さんやスタンドからは、オイルなどの仕入れ値段が上がったという話や、塗装関係の事業者からは、シンナーなどの仕入れが難しくなって、仕事に支障が出てきているという話を聞いています。都内の病院、全国的にですが、医療用グローブ手袋などが仕入れしづらくなって、困っているという話も聞きます。そこで伺います。ガソリンや物価高以外でも、じわじわと生活の負担になっているこの現状に対して、病院や町内業者の支援を考える必要性を感じますが、町の考え方、町長の思いを大筋で構いませんので、お答えいただきたいと思います。

●議長（酒井 聡） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） ただいまいただきました、片野良之議員からの質問にお答えいたします。中東情勢の緊迫化、とりわけホルムズ海峡の周辺的情勢が不安定であることを背景といたしまして、物流や原材料への影響が懸念されております。町といたしましては、これまで、国の重点支援、地方交付金等を活用して、低所得世帯への給付や燃料購入の助成、プレミアム商品券事業、農業者への機械購入助成など、物価高騰に対応するための町民への支援、そしてまた商工業者等を対象とした、地域経済の活性化を図るための施策に取り組んでまいりました。また、令和 8 年 1 月会議においてお認めいただきました、物価等高騰対応地方創生臨時交付金につきましては、予算の一部を今年度へ繰越しておりまして、これからスタートする事業もあるところでございます。なお、国におきましては、緊迫する中東情勢を踏まえた 8 年度補正予算案が示され、電気・ガスの利用料金への支援をはじめとして、地域の実情に応じて内容をアレンジできるような施策も講じられるというふうに聞いております。その概要につきましては、今朝ほども役場職員の中で共有しているところでございますが、こうした国の動向も見定めた上で、引き続き町民の生活への支援、そしてまた事業者への支援に取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございます。

●議長（酒井 聡） 片野議員。

◆5 番（片野良之） それではまず今町長から大筋でのお答えいただきましたが、病院での必要資材の調達を支える施策について何か考えがあるか、現場の事務長にお聞きしたいと思います。

●議長（酒井 聡） 松木病院事務長。

■病院事務長（松木昭彦） 冒頭、町長からも申し上げましたが、中東情勢をはじめとする国際情勢の不安定化により、医療材料や医薬品の供給への影響が懸念されております。当院におきましても患者様への診療に支障がないよう、日頃から複数業者との連携による調達体制の確保、必要材料の適正な在庫管理、代替製品の情報収集などに努めております。また、国や県、関係機関からの情報収集を迅速に行いまして、今後も地域医療に安定的に提供できるよう、診療材料の安定確保に万全を期してまいります。以上です。

●議長（酒井 聡） 片野議員。

◆5 番（片野良之） 今、事務長の方からの答弁で、複数業者からの仕入れということで、早め早めに手を打たれていることが伺いました。私もその問題をちょっと聞きたいなと思っておりまして、いろいろ調べてたんですが、例えば神奈川の保険医協会の調査では、83 パーセントの病院などが、やはりグローブとかいろんな資材の購入が滞る事態が発生したりして、複数の業者に依頼しているという調達の方法へ変わってきたという話を聞いております。また、松本の市民タイムスでも、これはグローブですかね。仕入れはできるものの、値段が 1.5 倍ほどに跳ね上がったと。単一の業者ではなく複数業者から少量ずつでも必要数を絶対的に確保できるように、今方針を変えているという報道もなされていまして。そういうことを考えて、病院の方で何かそういう対策を考えているのかなと思って先ほどお聞きしたんですが、思った以上に話が進んでいて安心しました。そこであと、国や県への資材調達の働きかけなども、迅速に行っていくというふうにお答えいただきましたが、確か、国の方でもグローブの、すいません今、数がちょっと出てこないんですが、供給するように放出するという報道がなされておりましたが、その数を聞いたときにこんな数で全国まかなえるのかなってちょっと不安に思ったんですが、現場としての感覚としては、もっと欲しいというのが現状だと思うんですが、いかがでしょうか。

●議長（酒井 聡） 松木病院事務長。

■病院事務長（松木昭彦） 現在、国におきましても、新型インフルエンザ等対策特措法に基づきまして、診療材料等の確保が困難になっている医療機関向けに、議員おっしゃ

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（3 日目）

れました医療用手袋 5,000 万枚を放出し、今後の状況を踏まえ、必要に応じ追加放出することとしています。現状として当院は充足されておりますが、このように国として対策も講じられておりますが、状況を見ながら、国や県に対し、必要な診療材料の安定供給体制の確保や医療機関への迅速な情報提供について、働きかけてまいりたいと考えております。また、供給不足が生じた際には、地域医療に支障が出ないよう国・県関係機関と連携しながら安全で継続的な医療提供体制の維持に努めてまいります。以上です。

●議長（酒井 聡） 片野議員。

◆5 番（片野良之） ありがとうございます。今後もスムーズに国や県と情報交換しながら進めていただきたいと思います。やはり、病院に行っていると、待合室でいろんな患者さんとお話をする機会があるんですが、信越病院は大丈夫なんだろうかという声を、やっぱり私もよく待合室で聞くんですね。ですから、そういったときに、病院はこうやって頑張ってくれてるよ、というふうに答えられるバックボーンができましたので、その辺ではありがたいなと思っております。ぜひこれからも進めていただきたいと思います。

続きまして、町内のオイルや塗装、シンナー等を扱う業者への支援について伺いたいと思います。これは先ほど町長も答えられたように、中東情勢の悪化、そしていろんな要素があって、今の現状に至っているのも、町としても本当に大変だと思うんですが、例えばこういう個人での努力ではカバーしきれないような事業者さん、そういったところに何か目に見える形での支援策など、何か考えていらっしゃるのでしょうか。これは担当課長の方がよろしいですかね。お願いいたします。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 原油価格や原材料価格の上昇、物流コスト増加等により町内事業者の経営環境に影響が生じており、特に自動車整備業、塗装業など資材調達や経費負担の増加が、経営上の課題となっているのと認識の方をさせていただきます。町といたしましては、まず、実態把握に努めるとともに、既存の中小企業支援制度、融資制度、経営相談、補助制度等の活用促進を図ってまいりたいと思っております。また、必要に応じて、商工団体や関係機関と連携し、設備更新、省エネルギー化、代替材料導入、生産性向上など、事業継続につながる支援策についても、検討してまいりたいというふうに考えてございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 片野議員。

◆5 番（片野良之） いろいろな政策をすでにもう考え始めていらっしゃるようで安心しました。ただですね、町の業者さんたち、本当に皆さん個人経営で、かなり厳しくなっているのが、あちこちから話が入ってきます。これは何度も言いますが、町が悪い

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（3 日目）

わけでは何でもないんですけど、こういった方々が安心して、事業を継続していけるようなこと、そして行政も皆さんのことをちゃんと見ているんだよ、というアクションを起こしていただければと思います。ぜひお願いいたします。また、国や県に対しての働きかけ、これはもう従来なされているようではありますが、今後も上から降りてくるのを待つばかりではなくて、こちらから意見をどんどん押し上げていって、能動的に働きかける、そういったことをやっていただきたいんですが、町として今後そのような計画はございますでしょうか。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業管理課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 片野議員ご指摘のとおりですね、地方自治体単独での解決には限界がございます。そのため、町といたしましては、長野県市長会や町村会等を通じて、国に対して中小企業小規模事業者の価格転嫁を円滑に進めるための環境整備や石油代替素材の開発、普及に対する強力な財政支援、さらにはセーフティネット保障の適応拡大など、法的財政的な抜本策を講じるよう、引き続き強く働きかけてまいりたいと思っております。併せまして国・県が実施する支援制度についても注視いたしまして、町内事業者へ適切な情報提供と活用支援につなげていければというふうに考えてございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 片野議員。

◆5 番（片野良之） ぜひ大変だと思いますが、住民のためにこれからも頑張っていただきたいと思っております。

それでは次の質問に移ります。観光業、特には宿泊業への支援策について伺いたと思います。今現在、ピークシーズン以外の合宿に対して、宿泊費の支援等が行われていますが、物価高が進み実質賃金がなかなか増えない現状の中で、合宿そのものは、今後継続されるのか不明です。そこで当町の大切な産業である観光、特に合宿などを扱う事業者へのさらなる支援が必要と考えますが、項目ごとに質問をいたします。現在実施されている合宿に関する支援強化施策。これを継続さらに強化する考えはあるでしょうか。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） これまでも観光の平準化、いわゆるオフシーズンにおける宿泊需要の喚起策として、スポーツや文化活動等の合宿誘致に対する支援事業を展開し、一定の成果を収めてきたところでございます。しかしながら、観光を取り巻く環境は絶えず変化しており、近隣自治体との誘致競争の激化に加え、旅行形態の多様化など、既存の枠組みにとらわれない、柔軟かつ強力な次の一手が求められていると認識しております。特に、豊かな自然環境の保全と持続可能な観光を両立させるネイチャーポジティブ、いわゆる自然再興や環境再生型観光の視点を取り入れ、通年での観光価値の底上

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（3 日目）

げを図ることは、本町信濃町の観光の未来にとっても極めて重要であると認識しております。以上です。

●議長（酒井 聡） 片野議員。

◆5 番（片野良之） なんといいですか、もうちょっと力強く後押しするよ、というような答えが欲しかったのですが、以前にも同じ質問をしたことがあります、例えば宿泊費だけではなくて、交通費に対する支援、他県では先ほど誘致するところでの競争の激化という話も出ていましたが、片道のバス代の負担だとか、航空機代を補助している自治体、全部をまかないというのはとても無理だと思いますし、今実際、子育て中の私自身としても、子どもの合宿など本当に負担がきつい。そんな中で何らかの形、やはりお客様に来ていただかないと観光業が成り立ちませんし、やはりお客さんが来ないことには税収も増えません。そういった中で、宿泊だけでなくこの交通費に対する何か補助、それから補助ができないまでも何か、例えばこれは燃料代でのサービスだとか、そういったものが何か検討できないか、いかがでしょうか。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 信濃町にお越しになられる主に団体客を対象としました交通費に対する支援策といった点につきまして、遠方からの誘客取り分け、学生団体や大規模なクラブチームの誘致におきましては、移動コストの負担軽減が決定打になる事例が多く見受けられ、全国の他の自治体におきましても、貸切バスの借上げ費用や燃料費、高速道路料金に対する直接的な補助を宿泊支援とセットで打ち出し、大きな成果を上げている事例等も見受けられます。こうした交通支援につきましては、旅行需要の喚起や誘客促進の大きな効果が期待される一方、制度の継続性や費用対効果、さらには近隣地域とのバランスなども慎重に見極める必要がございます。当町といたしましても、都市部等からのアクセスに係る心理的財政的ハードルを下げるため、既存の宿泊補助への交通費加算枠の新設や新たな助成メニューの構築について、財源の確保も含め具体的な導入可能性のシミュレーションを進めていければというふうに考えてございます。さらに、二次交通や移動利便性の向上も重要な課題であることから、単なる交通費の直接補助にとどまらず、地域の交通事業者との緊密な連携による周遊性の向上や、アクセス改善等を含めた総合的な受入れ環境の整備につきましても、併せて検討の方を進めていければというふうに考えてございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 片野議員。

◆5 番（片野良之） ぜひとも大変な財政の状況ではありますが、少しでもこの町がにぎわうような形になるように努力を続けていただきたいと思います、期待しております。それからですね、お客さんをこちらに引っ張ってくる誘致誘客に対する支援とし

まして、いろんな形があると思います。例えば、観光協会や合宿誘致に協力してくれる団体等との連帯などの可能性。それからそういったところだけに任せるのではなくて、例えば宿泊業の方、観光協会の方、そして行政の方が、三つ巴になって誘致に動くようなこともできるのではないかなと思うんですが、その辺、何かこれまで取り組まれた、もしくはこれから取り組みたいというものはあるでしょうか。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 誘客に関する支援策につきましては、当町においては単に補助制度による集客を追い求めるだけではなくて、信濃町ならではの豊かな自然・食・文化、そして体験価値そのものを高め、お客様から選ばれる地域づくりへとつなげることが極めて重要であるというふうに考えております。そのためには、ターゲットを明確に設定した効果的なプロモーションが不可欠であり、近年重要性を増しているデジタルマーケティングを活用した大学のゼミサークル、社会人スポーツ連盟等へのピンポイントな情報発信に加え、これまでの学校関係への直接的な営業活動、旅行商品の造成、イベントの活用など、多様な手法を組み合わせながら、取組の方を進めてまいりたいというふうに思っております。また、課題である感染対策につきましても、滞在型コンテンツのさらなる充実を図ることで、通年での需要喚起を目指してまいりたいというふうに考えてございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 片野議員。

◆5 番（片野良之） 私も約 20 年前、この町に嫁いできたわけなんですけど、その時に本当に羨ましいなと思うものがたくさんありました。私も観光業の方の従事者だったので、信濃町というのは、ものすごい比較対象とされるライバル地だったんですね。こんなにいいところなのに、なんでもっと頑張れるんじゃないか、というのが私の思いなんです。実際当時とはもう随分、旅行形態も変わってきてまして、旅行業者に一任するようなセールスでは全然間に合わないのは分かるんですが、何かもうちょっと少なくとも、私が以前長くいた地域では、旅館組合、観光協会、地元の行政の方、これが一緒になってキャラバンを組んで東京、名古屋、大阪、よく行ったものです。そうやった中で、ここではそういう活動がほとんど見られないんですよ。ものすごく私、残念なんです。こんなに良い素材持っているのにもっとやろうよ。もっと頑張ろうよって思うんですが、ぜひそういったところを、いろんな視点の方々の意見を聞きながら、煮詰めて、もっとより良いものにしていただきたいと思います。ぜひ期待しておりますので、その辺お願いいたします。

3 つ目の質問に移りたいと思います。鳥獣害対策について伺います。特に、クマなどの大型動物への対策として、主に対応の前面に立つ猟友会の方々、高齢化がだいぶ進んできて、会員もだいぶ少なくなったと聞いています。このような状況で後継者の確保や育成について、猟友会だけではなかなか厳しいんじゃないかなと思うんですね。そういっ

た部分で、町で罾狩猟、銃狩猟を行うような人材確保や育成、これについていろいろやっていたいただいていると思うんですが、今取り組まれているものを、いくつか紹介していただければと思います。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 有害鳥獣の対策につきましては、地域の安全確保や農作物被害防止のため、日頃から活動をいただいております猟友会の皆様には大変なるご尽力をいただいております、町として深く感謝の方を申し上げるところでございます。その中で、猟友会員の高齢化が進んでいる一方で、近年はですね、若い世代の加入者も見られ、有害鳥獣対策や地域資源の保全に関心を持つ方が増えてきていることは、大変心強く感じているところでございます。町では現在新たに狩猟免許を取得する方に対しまして、受講料や講習費用、狩猟登録に要する経費の一部を補助するなど、担い手確保に向けた支援を行っております。加えまして、捕獲活動には専門的な知識や経験、安全管理に関する技術が必要であることから、猟友会におきましては、実地研修や技術継承の機会を設けるなど、若手狩猟者の育成にも取り組んでいただいております。こうした中、自治体を中心となって、専門的に捕獲業務を担う、いわゆるガバメントハンターを導入する事例も見られ、安定的かつ継続的な鳥獣対策を進める上で、有効な手法の一つであると認識をしております。その一方で、ガバメントハンターの養成確保には、狩猟免許の取得に加え、高度な捕獲技術や安全管理に関する知識の習得、猟銃の購入、管理に係る費用、さらには継続的な人件費の確保など、さまざまな課題があるものと考えてございます。町としては、まずは猟友会との連携を基本としながら、狩猟免許取得支援や若手人材の確保育成を進めるとともに、他の自治体等の取組事例や費用対効果、導入体制等について研究し、将来的な選択肢の一つとして、ガバメントハンターの導入についても、検討してまいりたいというふうに考えてございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 片野議員。

◆5 番（片野良之） いろいろな方法で後継者育成への支援も行っていくと伺いました。今、ガバメントハンターの話も出てきたんですが、よく住民の方と話をしていると、役場にガバメントハンターを置けばすぐに解決するじゃねえかなんて、安易なことを言う町民の方、よくいらっしゃいます。やっぱりそれはなかなか厳しいんじゃないという話をするんですが、ガバメントハンターは、本当はいてほしいなとも思うんですが、一般の方々が思っているような簡単なことではないと思うんですね。やはり猟銃の許可、使用・保管、そういったことを考えると公安委員会の管轄にもなりますし、簡単に役場の中にそういうところを作って、保管すればいいという町民の方もいらっしゃるんですが、なかなかそういうのは難しいと思うんです。実際、いろんな課題がある中で、いずれはそういうものも考えていかなければという、先ほどの課長の答弁だったんですが、ガバメントハンターではなくても、それに近いような形のもの。やはり生活がかかって

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（3 日目）

くるので、ボランティアではできないと思うんですね。ですから、そういった部分でいろんな課題があると思うので、そういったところで、それでも将来的にはという考えをお持ちだったので、その辺の展望をもう一度詳しくお聞かせいただければと思います。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 片野議員おっしゃるとおり、我々一般職につきましては、特段それに特化して公務員になったわけではございません。ガバメントハンターをという自然の流れから求める声もあろうかと思えますけれども、まずは、猟友会をベースにやっていく中でおっしゃるようになりますね、生活もかかっているわけでございます。そういった中で、年間通して何かしらの体制がつけられるようであれば、他市町村の動向を見る中で、検討の方をさらに加えていければというふうに考えてございます。以上です。

●議長（酒井 聡） 片野議員。

◆5 番（片野良之） 課題はたくさんあると思いますので、可能になるような時期が来たら、またしっかりと進めていただきたいと思います。

次に、今の別な問題でもよく取り上げるんですが、ガソリン代や物資の高騰、物価高、本当に生活きついです。今後も約 2 万点のものが値上がりするという報道などもあります。そんな中で猟友会の方々が出動するときの費用弁償じゃないんですが、ガソリン代や他に使う資材、値段上がってきていると思います。今の払われている手数料といいですか、手当が妥当かどうかは、私はわからないんですが、その辺柔軟な対応をお願いしたいと思うんですが、いかがでしょうか。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 出動手当に関することにつきまして、町では毎年 4 月に猟友会と有害鳥獣駆除業務に関する業務委託契約を締結し、その契約に基づいて有害鳥獣の捕獲活動や巡回など、活動内容に応じて委託料として支払いをしております。このため、猟友会の出動手当等の増額につきましては、個別の手当としてではなくて、業務委託契約に基づく対価として整理しており、社会情勢や燃油価格、資機材費等の経費動向などを踏まえながら、適宜見直しの方をしております。本年度におきましても、近年の物価上昇や活動負担の増加等を踏まえ、出動手当に関する委託料の増額をしたところでございます。引き続きそういった社会の情勢等を見ながら、適宜単価については、見直しの方を図っていければというふうに思っております。以上です。

●議長（酒井 聡） 片野議員。

令和 8 年第 425 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（3 日目）

◆5 番（片野良之） ありがとうございます。適宜変えていくということで安心しました。それから、猟友会ではないんですが、電気柵への支援、これはもうしばらく町内でもやっています。特に何千メートルというようなものに対しての補助などもあります。そういう大々的なところだけでなく、個人のところでもやはり年々電気柵が上がっているんですね。でも金額があまり増えているように見えていないので、もう少しここは申請数がどのくらいあるのかは、ちょっと聞いていないのでわからないんですが、これも柔軟に増やしていただくようなことは、検討いただけますでしょうか。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） 個人の電気柵の設置の補助金につきましては、この補助制度自体は平成 17 年度に制度を開始いたしまして、当時は購入価格の 20 パーセント、上限 1 万円としておりました。平成 20 年度からは上限を 2 万円に、さらに令和元年度からは購入価格の 3 分の 2、上限 5 万円と段階的に拡充を図り、農作物被害の軽減に向けた支援を実施してございます。実際の申請件数等は手元にございませんけれども、こうした拡充をする中で、これまで進めてきたといった結果がございまして、その辺をご理解の方いただければと思います。以上です。

●議長（酒井 聡） 片野議員。

◆5 番（片野良之） ありがとうございます。私も、ちょっと確認できてなかったところがあったので。5 万円にまで金額が増えているのは、ちょっと私も把握しておりませんでした。失礼いたしました。ただですね、町民の方から申請の仕方がわからないという声を聞くんですね。役場にしょっちゅう来ているような方々であればいいと思うんですが、そうでない方々が確か、町の方でこういう補助あるよと言っても、どうすればいいんだい、よくわかんねえよ、というふうに言われるんです。ですからそういった部分での周知の方法、もうちょっと何か機械に対してちょっと疎いような方々でも、見れるようなそういったアプローチを、今後さらに考えていただければと思います。

あと最後にですね。昨今クマの被害の中で緩衝地帯を設けることへの効果、これは猟友会の方に聞いたら、最近アーバンベアと言われる種類が増えてきていて、あんまり意味ないんじゃないのというふうに言われたんですが、それでもやはり緩衝地帯あるとないとは違うと思うんですね。ただ信濃町、林野部がものすごく多い。本当に山の中といたしますか、森の中の町なので大変だと思うんですが、そういった緩衝地帯を設けることを、やろうとする人たちに対する整備に必要な機材、そういったものを購入する際の何か補助というのはあるでしょうか。

●議長（酒井 聡） 佐藤産業観光課長。

■産業観光課長（佐藤宏幸） クマのみではなくてですね、イノシシ、シカといった有害

鳥獣の出没を抑制するためには、人里と山林の間に見通しの良い環境を整える、いわゆる緩衝帯の整備が有効な対策の一つであるというふうに理解をしてございます。これまでも関係団体や地域の皆様により、草刈りや支障木の伐採などを通じた緩衝帯の整備に取り組んでいただいております。緩衝帯の確立につきましては、クマの出没状況や、周辺の土地利用、土地使用者の皆様のご理解、さらには継続的な維持管理体制確保などを踏まえながら進めていく必要がございます。町といたしましては、今後も地域からの要望や出没状況を注視しながら、関係機関や地域の皆様と連携し、必要に応じてですね、緩衝帯整備、拡充について検討の方を進めていければというふうに思っております。ただどうしてもですね、地域の皆様、高齢化等が進んでくる、また、草刈り機等、機械等も持っていない方もいらっしゃいますので、今、片野議員がおっしゃいました補助的な部分については、今後の課題といいますか、という中で検討させてもらえればというふうに思っております。以上です。

●議長（酒井 聡） 片野議員。

◆5 番（片野良之） では、ぜひ今後の課題ということで検討していただきたいと思います。これで私の一般質問は終わりといたします。

●議長（酒井 聡） 以上で、片野良之議員の一般質問を終わります。

●議長（酒井 聡） この際申し上げます。昼食のため、午後 1 時まで休憩といたします。

（午前 11 時 27 分）